
結婚指輪物語
11
Presented by
めいびい
Tales of Wedding Rings



結婚指輪物語

TALES OF WEDDING RINGS



Tales of Wedding Rings

結婚指輪物語

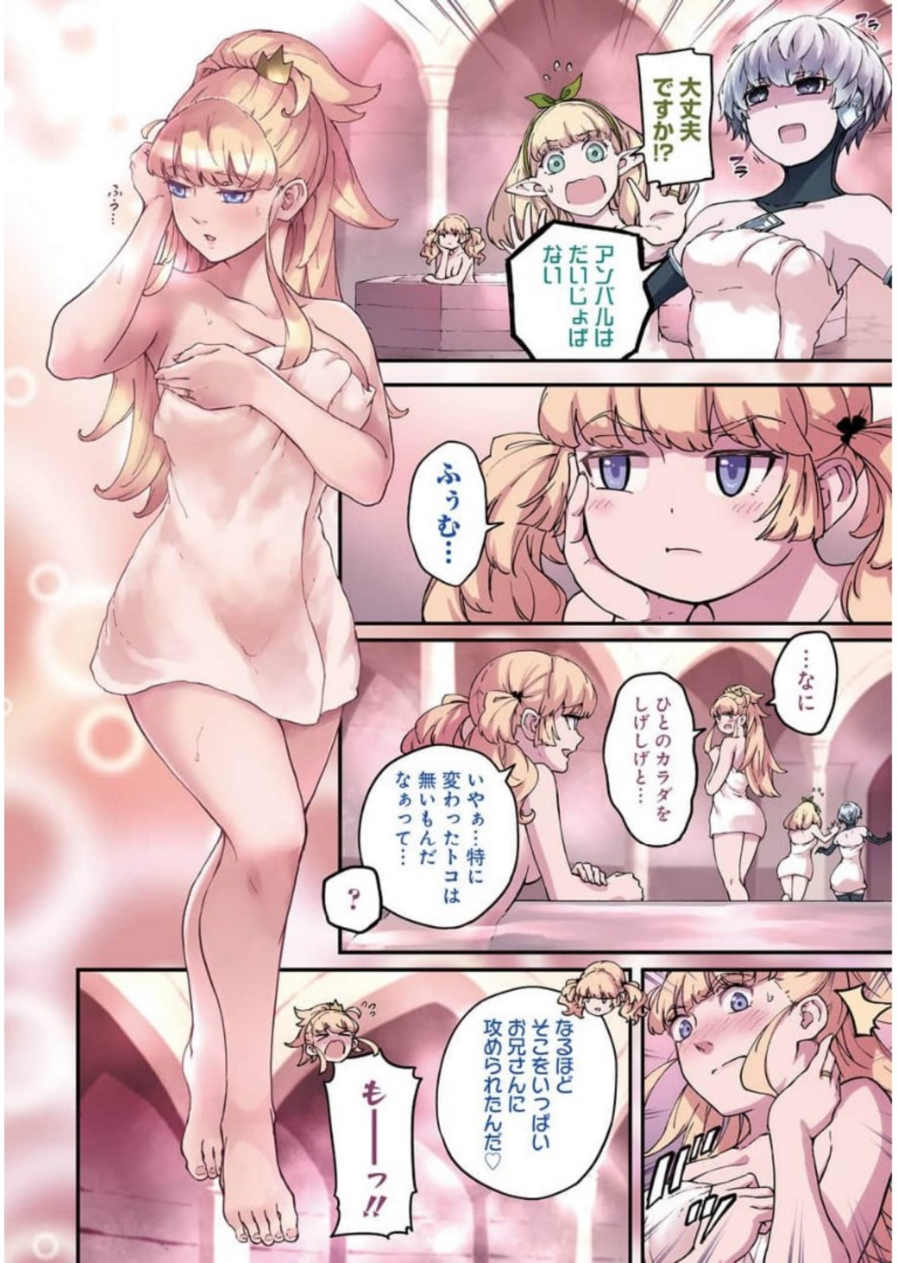
11

Contents

Presented by
MAYBE

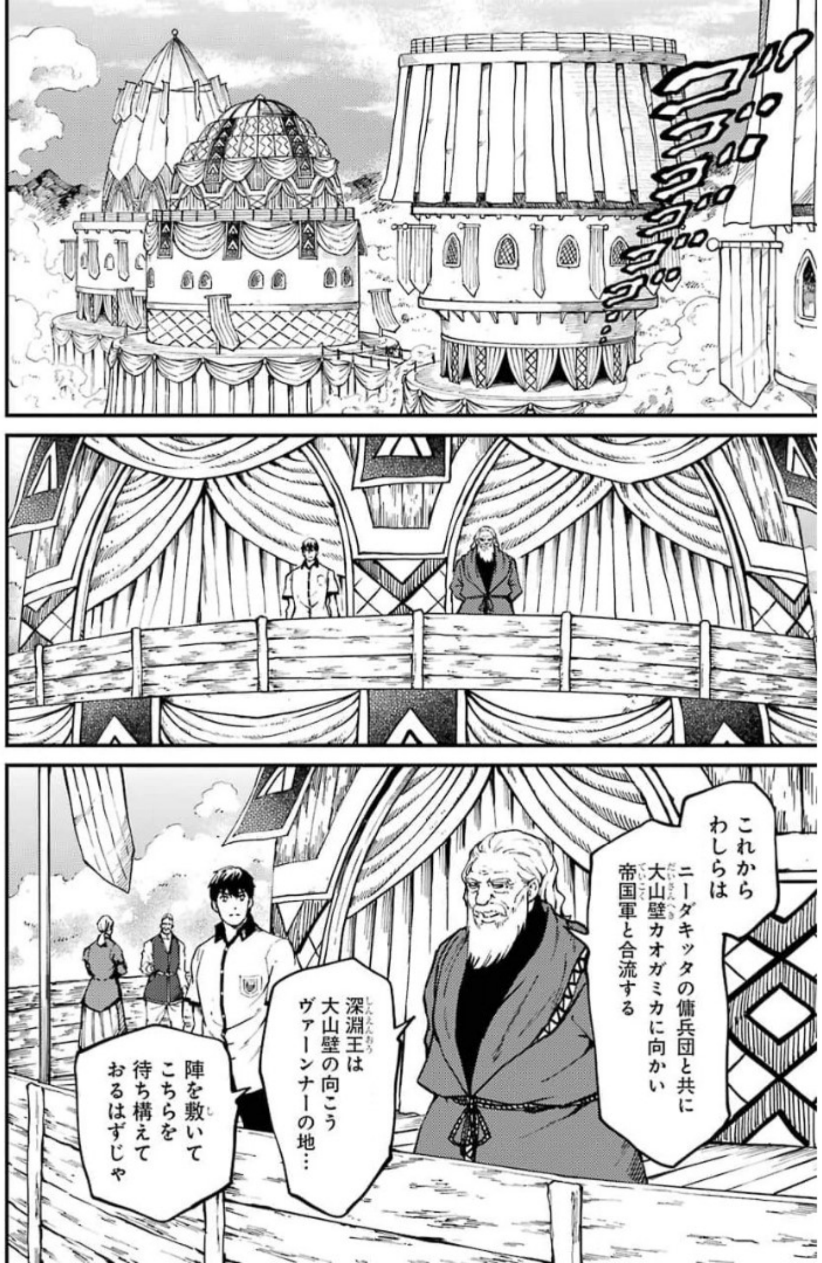

第58話


いやぁ―― お肌スベスベっすゅ〜――っ
でかい風呂場も良いものじゃな…
そうだろう そうだろう
これは マーサにも 作らせねば…
んしょっと…
ギュッ
……で あれから どうなの?
どうって なに……
ブワァァ…
お兄さんとの 夜の生活♡
!!


大丈夫 ですか!?
アンバルは だいじょば ない
ふぅ…
ふぅむ…
…なに
ひとのカラダを しげしげと…
いやぁ…特に 変わったトコは 無いもんだ なぁって…
?
なるほど そこをいっぱい お兄さんに 攻められたんだ♡
もーーーっ!!


なんでモーリオンにそんなこと話さなきゃいけないの!?
教えてよ〜〜〜
……
あれからまだしてない…
え……うそそんなことありえるの!?
既に一線を越えた男女が同じ寝室で寝てるのに!?
……っ
だってさ…
出来るわけないでしょ!?
あんな部屋の構造で!!
カーテンの向こうにそれぞれのお姫さまたちの部屋!
中央には指輪王さまの大きなベッド!!
今夜のお相手は…誰かひとり?それとも全員と!?
わたしたちが御用意致しました
なんという ハーレム仕様…


絶対みんなに見られるんだよ!?そんなの無理!!
えーーっ気にしなくても良いのに…
むしろ見せつけちゃおうよ!
わたしと彼はこんなにも愛し合ってます♡……って
無理無理絶対無理!!!
…したいとは思ってるんだ?
そんなの……っ
当たり前でしょ……
ふ〜ん…
お姉ちゃんも大変だね〜……
うっ…



これから
わしらは
ニーダキッタの傭兵団と共に
大山壁カオガミカに向かい
帝国軍と合流する
深淵王は
大山壁の向こう
ヴァーナーの地…
陣を敷いて
こちらを
待ち構えて
おるはずじゃ



大山壁を
越えるまでは
問題無かろう
しかしその先は
まったくの未知
厳しい戦いが
待っておろう…
……覚悟なら
出来てるさ
到着まではまだ
しばらくかかる
心の準備だけでも
しっかりとな
ところで
サトウくん…
クリストルとは
あれから
どうなのかね?
…は?
しらばっくれるな
夜の生活じゃよ
いきなり
ぶっこんできたな…


別に どうもこうも… ただなかなか 機会が無いと いうか……
? どういう ことかね
いやだって あんな 部屋じゃ……
ふむふむ… なるほど
部屋のことなら 今晩までに なんとか しておこう
!!
これから 最後の戦いが はじまる
指輪の力のためにも… 出来る限り ふたりの愛を育むのじゃ
決して後悔の 残らぬようにな


そういや コイツ ここんとこ 黙ったままだな
なぁ…… 俺は強くなって いるか……?
!
ハルト!
…ヒメ!
さっきまで みんなで お風呂に 行ってたんだ
おお ここの風呂場は 凄いもんなぁ


ダメだ…さっきあんな話されたから意識してしまう
どうしたの？
いや…俺も後で風呂に行ってくるかな
じゃあわたしも一緒に！
え また入るのか？
前に聞いたんだよねぇ ハルトがグラナートにマッサージしてあげたんだって？
じゃあ わたしもして貰わなきゃって！
それは別に構わないけど…
あそこでするのは駄目だろ
…なんで？

なんでってそんなの…
ヒメ相手だと絶対がまん出来なくなる
…!!
そ…そっか
それは確かに良くないね！
ギュ…
ねぇ ハルト……


指輪王さま——っ!!!
あ こっち見た！頑張ってくださいねー!!
人気者だね…
なんかさ…あんまりふたりきりになれる機会って無いよね……
魔動車の中だとどこかしら人がいるからな…
ざわ…
ざわ…


それじゃあさ……
どこかちょっと…
静かなところ探そっか


ダッ
やった！
ここなら誰もいない！
わーっ！すごい眺め!!


やっとふたりきりになれた！


ヒメとなら
絶対に大丈夫だ
深淵王を倒して…
そして 元の世界に
俺とヒメの世界に
帰ろう
…うん！
…そうだ
ヒメ
ん？
部屋のこと
なんだけどさ
じいさんが
なんとかして
くれるらしいから
今夜からは
…その……
ちゃんと
ふたりきりで
過ごそう


いよいよ
最後だな……
うん…
今度は
勝てるかな
勝てるさ
負ける気なんて
しないな
うわ
すごい自信…
俺もついに
"大人の男"に
なったからな…
えぇーっ
いきなり調子に
乗りすぎじゃない？
乗りすぎなくらいが
丁度いいんだよ




おー
しっかりいちゃいちゃしてるじゃないか
……
見てるだけで良いのか？
今は祝福すると言ったが…
本当はくやしいんじゃないか？ネフリティス
そんなこと…ありませんよ
エルフは待つことが得意ですから
さてそろそろか…
ガッ
ガッ
？
どこかに行くんですか？


ドォッ…


ダァ

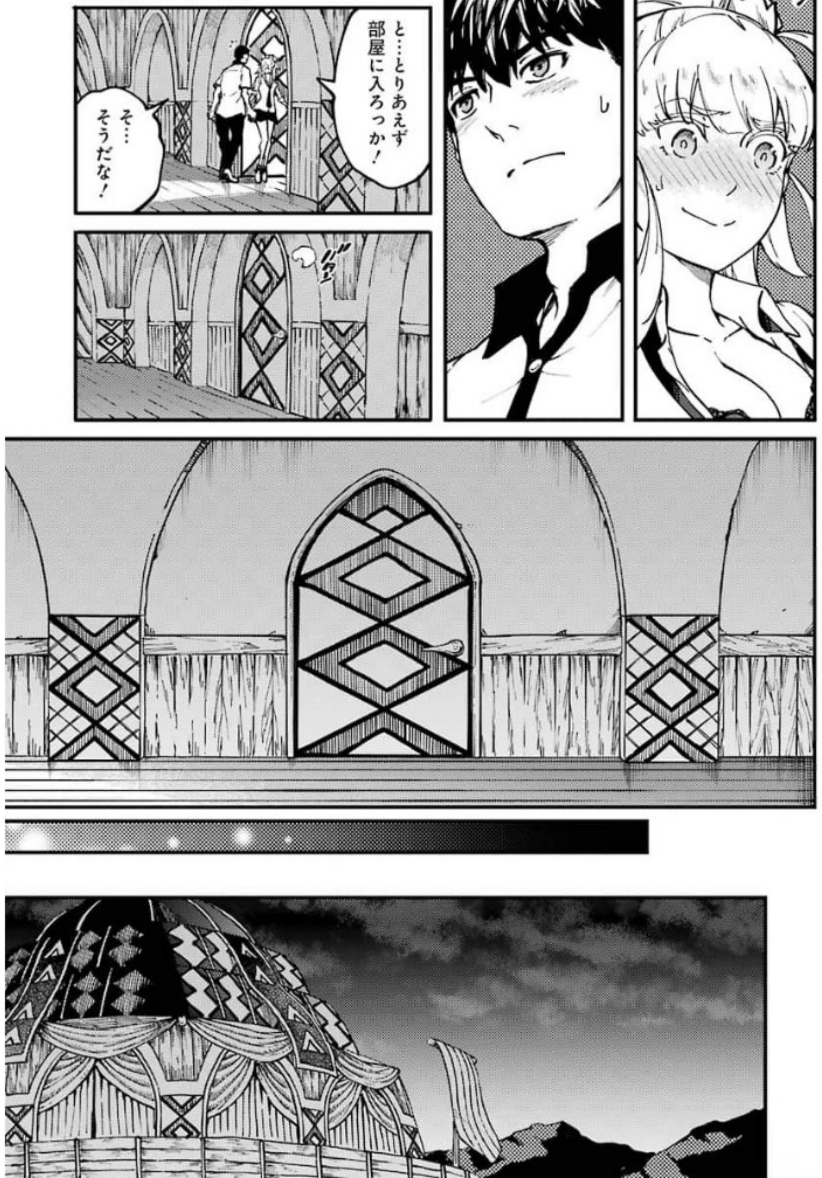

ザッ
どうした
アンバル
手加減の
つもりか？
そう
ではない
グラナートが
速くなっただけ


反応がとても
良くなっている
力強さも前とは
比べものにならない
火の魔法を完全に
使いこなしている
何より
顔つきが一番違う
視線に
迷いが無い
心の曇りが
消えた証


良い顔に なったじゃないか グラにゃートちゃん！
!!
母上……と 父上まで！ 戻って おられたのか！
うむ うむ
…というか いつの間に 乗り込んで……
この大戦に 駆け付けないで 他に何を するんだい！


ザリ…
ザリ…
そんな ことより 終わったんなら 空けてくれ ないか？
ここからは 夫婦水入らずの 時間だ
今こそ 魔導の尖塔での 修業の成果を 見せる時… いくよあんた!!
!!


…というわけで
あたしが部屋を代わってあげることになったから
ほんとはおじいちゃんが代わるって言ってたんだけど
あの部屋におじいちゃんが入るのはちょっとまずいしね
確かに…
じゃあたしは向こう行って来るから!
お姫さまたちとのパジャマパーティー楽しみ!
それじゃおやすみ～☆
モーリオンってなんだかんだ良い子だよね
どうだろうな…
あ そうそう この部屋ではほどほどになんてしなくてもいいからね♡
!!


と…とりあえず部屋に入ろっか!
そ…そうだな!


ファァ…
ん？
何してるんだ？
ネフリティス
こんな夜中に…
あ
グラナート様！
見てください！
ここから…



モーリオン様が教えてくださったんです
この部屋の中が見える場所があると…
あいつは…
わたしずっと興味があったんです愛の営みというものに……
おふたりのために今は我慢しているのですから
少しくらいおこぼれをいただいてもバチは当たりませんよね
ネフリティス…
本当に…見た目とは違ってしたたかなヤツだ…
グラナート様は見ないんですか？
ぱっ…!?
わ……わたしは…
し……仕方ないな…わたしも付き合ってやるか……
わわ！すごいです！あんなところをこんなに…！
クリストル…なかなか大胆なやつだな…



どよ〜〜〜〜ん…
ふぁ…
あやつらはまぁ良いとして…
なんでおぬしらまで寝不足なんじゃ?
まぁ良い皆ついて参れ
いったん降りるのじゃ


ドドドド…
…ってここマーサじゃないか⁉
見たままのことを口に出すなアホと思われるぞ
イダノカンに入る前の最後の補給じゃ
ついでに父の顔も見ておく
挨拶くらいして行け
曲がりなりにも妾の夫じゃろうが


父上
お久しゅう
ございます
うむ
よく戻った
しばらく見ぬ間に
随分と成長した
ようだな
見違えたぞ
ダァーーーン!
見違えたのは
父上の方なのじゃ…
なんじゃこの
ありさまは!?


姉様からも
言ってやって
くださいな
賢王の名声を
取り戻したと
思ったら
すぐこれです
初孫
だぞ!?
サトウくん
しばらくぶりだね
サフィラ!!
マルスさん!
それより
初孫って…
あれ…?
言うておら
なんだか?
!!
ズッ…


うわーっ
おめでとう
ございます!
最後の戦いに行く前に
マルスさんに
会えてよかったよ
随分と…
世話になった
からな
その戦い
僕もついて行く
つもりだ
!?

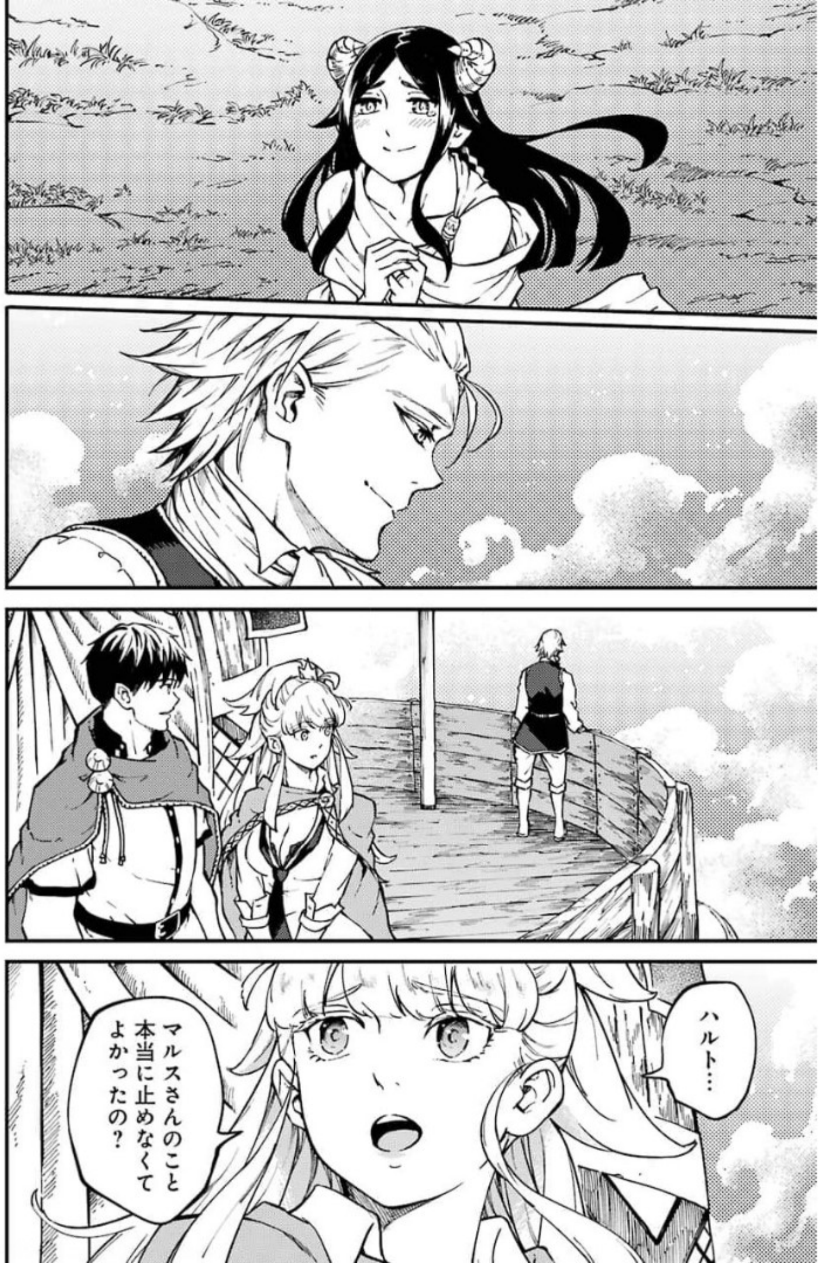

サフィラさんを
置いてか?
…そういう
ことになるね
マルス…
おぬし
本気か?
おぬしが死ねば
サフィラが
どれほど
悲しむか…
わかって
おろう?
サフィラは
僕の意思を
尊重して
くれたよ
そのようなことを
聞いておるのでは
ない!



いや…きっと
マルスさんなりに何か考えがあってのことで……
おぬしは黙っとれ
僕はサフィラと結ばれて…
サフィラの育む命を知って…
その度にさらに彼女のことが大切だと思えるようになった……
サトウ君も守るべき人がいるならわかるはずだ
…彼女は僕にとってすべてなんだ
深淵王を倒さなければ
サフィラと…そしてあの子の未来も無いんだ
守るために出来る限りのことをしたい
無茶をしようっていうわけじゃない
君ならきっとやりとげるとそう確信している
決して足手まといにはならないよ


ふたりの未来のために……か
どこまでも生真面目な男じゃの
サトウ…おぬしはどう思っておる
この戦い生きて帰れぬこともあるやも知れん
あわよくば勝てたとて
クリストルを残して共倒れになる可能性もあるのじゃぞ
……！


……ま
仮の話をしても無駄じゃの
マルスのように残せるもんは
しっかり残しておいた方が良いということじゃ
ゴゴゴゴ…


ハルト…
マルスさんのこと本当に止めなくてよかったの？


ああ…
俺もマルスさんの気持ち少しは分かるからさ
守らなくちゃいけないものが見えたというか
ぐっとくるものがあったというか…
そっか……
でもさ
ホントびっくりしたよね！
サフィラさんにもう赤ちゃんがいたなんて！
そ…そうだな！
ねぇ…
ハルトはどう思う？
わたしにも……その…出来ちゃったら
！


正直なところ
心配が無かったとは
言えないけど…
今なら
そういうことがあっても
良いんじゃないかと思える

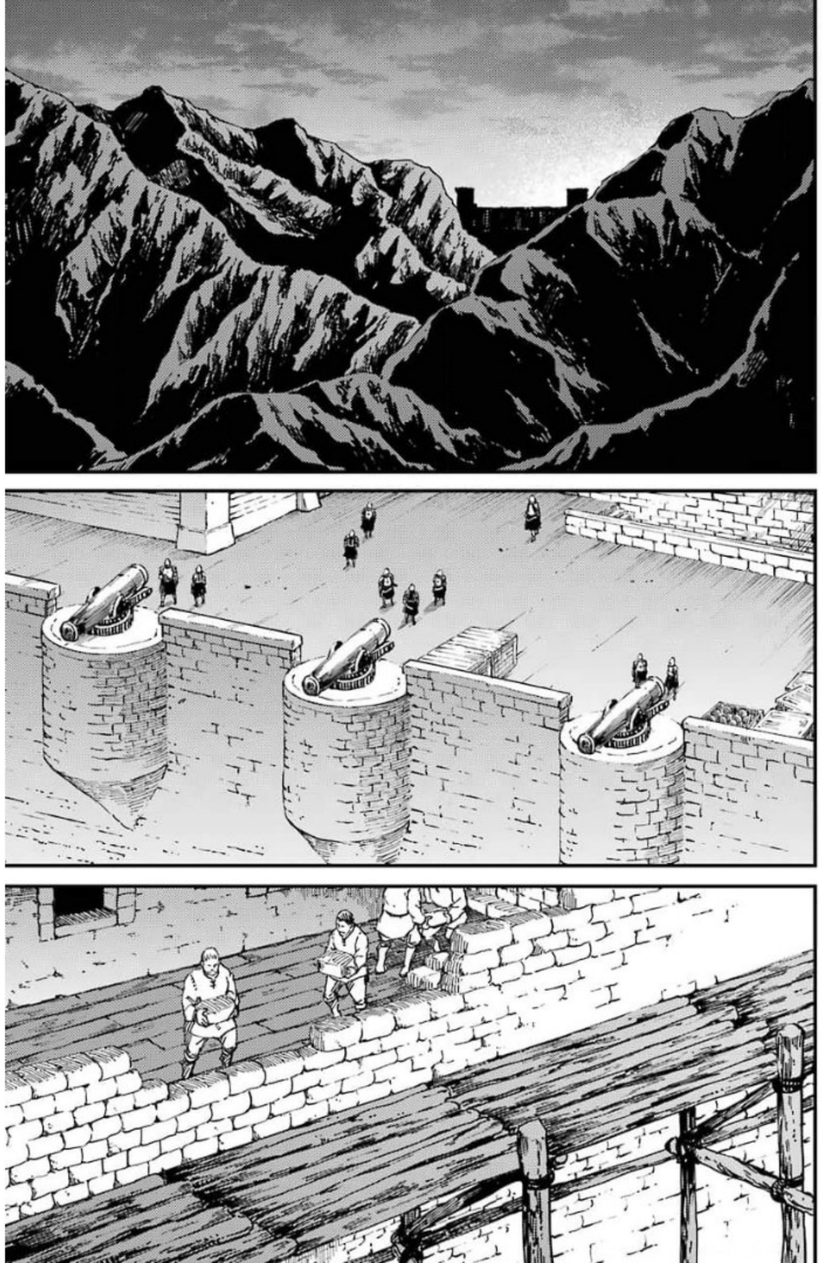

…そうだね！
…




深淵王様…
人間達が大山壁に集いつつあります
新たな指輪王もさらなる光の力を手にこの地へ…


……
すべては…
あなた様の御心のままに……


マルスくんはちゃっかりしているというのにそれに引きかえ君は…
娘の何が不満なのかね
いやそういうわけでは…
やめい



結婚指輪物語

TALES OF WEDDING RINGS


第59話


この要塞は
深淵王の軍勢を
迎え討つ
最前線として
築かれている
軍勢の侵攻を
凌ぎつつの建築は
簡単なことでは
なかった…
しかし
先日の
魔導の尖塔での
一件以降は
小康状態だ
魔物を生み出すことも
送り込むことも
いずれも力を使う
皇帝陛下の見込み通り
深淵王の魔力は
無限では無いという
ことだ
要塞は
ほぼ完成した
ここを拠点に
山頂のカオガミカ遺跡を攻略し
ヴァーンナーへの足掛かりとする


俺たちも
それを手伝えば
いいんだな
…その
必要はない
!?
我々は
別の道を行く
わしらが向かうのは
軍勢は通れぬ
ドワーフの抜け道
迷宮隧道
じゃ
…これで
良いのじゃな
スリュダー殿


帝国の人たちを
囮にするってことか…
言ってしまえばそうじゃな
じゃが……
…わかってる
俺は俺に出来ることをするだけだ


我らとて無謀な戦をするつもりは無い
帝国軍…いや人として最大限の戦いをするのみだ
迷宮隧道の入り口は既に確保してある
ただ…いかなる冒険者も抜けることが叶わなかった複雑で危険な道だ
無事を祈る
マルス


父上…いや
皇帝陛下には会わなくて良いのか
僕は帝国を出た身…
道理が通りませんよ
これは僕が一人で決めた道です
父は父の…兄上は兄上の道を進んでください


良い目だ…マルス
頑張れよ
はい…
兄上も…ご武運を


あれ？
この料理って…
ああ…


大量の物資とマーサの食材も持ってきたからな
今夜は特別だそうだ
マーサやニーダキッタ帝国も…
たくさんの人の力がここに集まっているのですね
ロムカは……？
大丈夫じゃよ
ロムカの精鋭もこちらに向かっておるとの事じゃ


ザザッ


これより
カオガミカ奪還作戦を開始する!!!
オオオオオオオオオッ


お話は伺っております！
ここが迷宮隧道か…

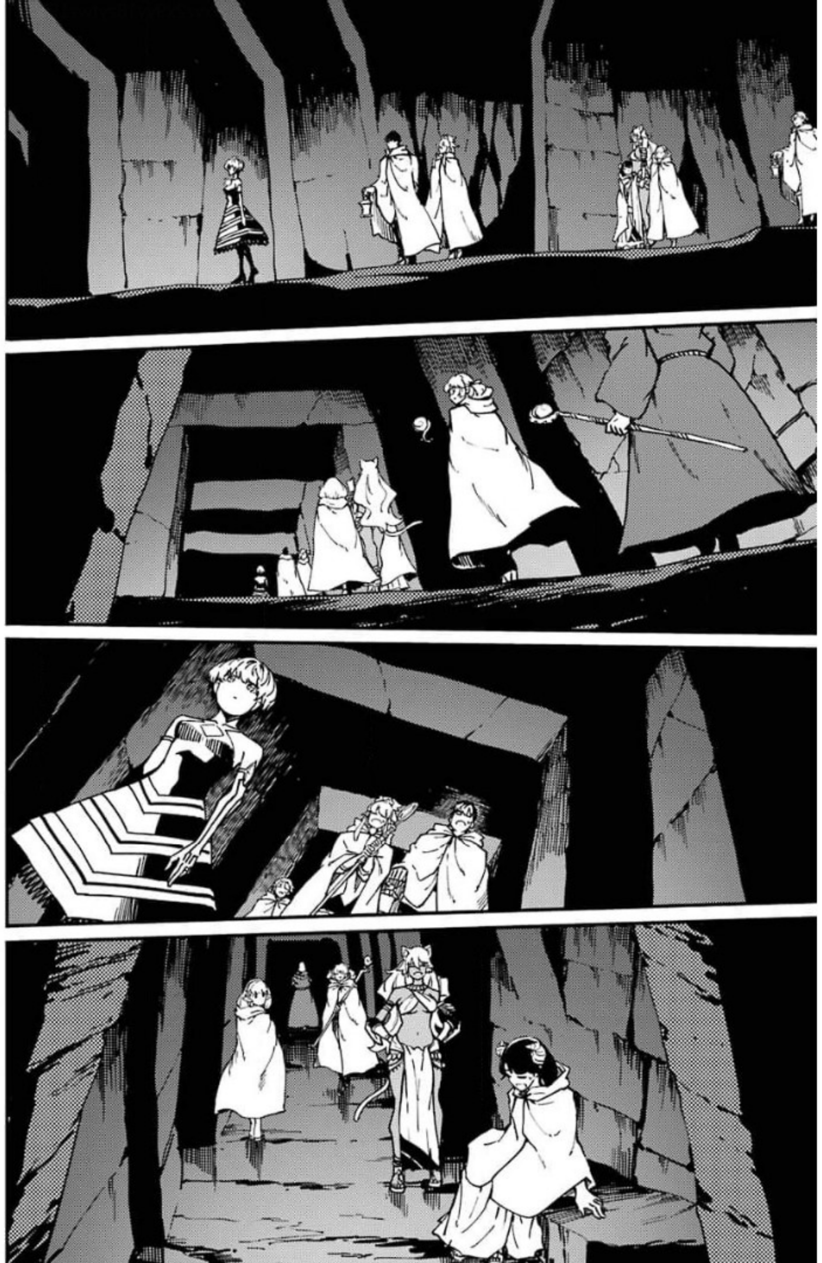

ドワーフたちの坑道であり住居でもあったと言われておる
大山壁を貫き縦横に走っておるそうじゃ
過去にわしとマルス殿が深淵王の軍勢から逃れたのも
これの一部に落ちたからじゃな
ちょっと待って…
ドワーフたちが住んでいたのはイダノカン遺跡じゃないのか？
それはごく一部だったということじゃ
過去の深淵王との戦いの後ドワーフたちは姿を消してしまったが
そのほとんどは地下に隠れ住んでいたと思われる


そ……
そう　だったのか?
だいたい　そんなところ
結局は　アンバルを遺して　消えてしまったけど
ここを無事に　抜けることが出来れば　深淵王の領域　ヴァーンナーじゃ
もう　後戻りは出来んぞ　覚悟は良いな
ああ……
案内は……
アンバルに　任せるんだよな
うん
アンバルに　任せて
?
………アンバル?


さぁ
張り切って　突入じゃ!
ポタ…



さすがに…
洞窟の中は冷えるな
ヒメは…大丈夫か？
わたしは…
大丈夫だけど…
…みんなは
寒くないか？
ん？
このくらい涼しくて丁度良いくらいだが
はあ!?
妾など今にも凍えて死にそうだというに…
火の指輪の魔力のおかげだな
多少の寒さなら内から出る熱が身を守ってくれる
なるほど
つまりこうしてくっついておればおこぼれが貰えるわけじゃな
ぴと
ぬくぬくなのじゃ〜〜〜




おかしいのぅ……
地上に出るには登らねばならんはず
どんどん下って行っておるような……
アンバル…
本当にこの道合ってるのか？
絶対に合ってるアンバルに間違いはない
本当に…？
合ってる
いやでも…
絶対に間違いはない



絶対にこの道で合ってる
アンバルの記憶は確かだから…
アンバル！ちょっと待って…
アンバル…？
むぅ…
この地で生まれた彼女に任せておけば問題無い
本人もそう言っておったから任せたのじゃが…
そういや…
ここの入り口に来た辺りから…ちょっと様子が変だったな
どういう事じゃ…？
ともかく…
早く彼女を追いかけるぞサトウくん！



合ってる…
絶対に合ってる……
アンバルの記憶は確か
間違いは無い
だからこの先にあるのは……





DL-Raw.Net


まさか…
地下にも
このような規模の
都市があったとは
もしかして
アンバルは…
ここへ
誘われたのか?


暑い…



結婚指輪物語

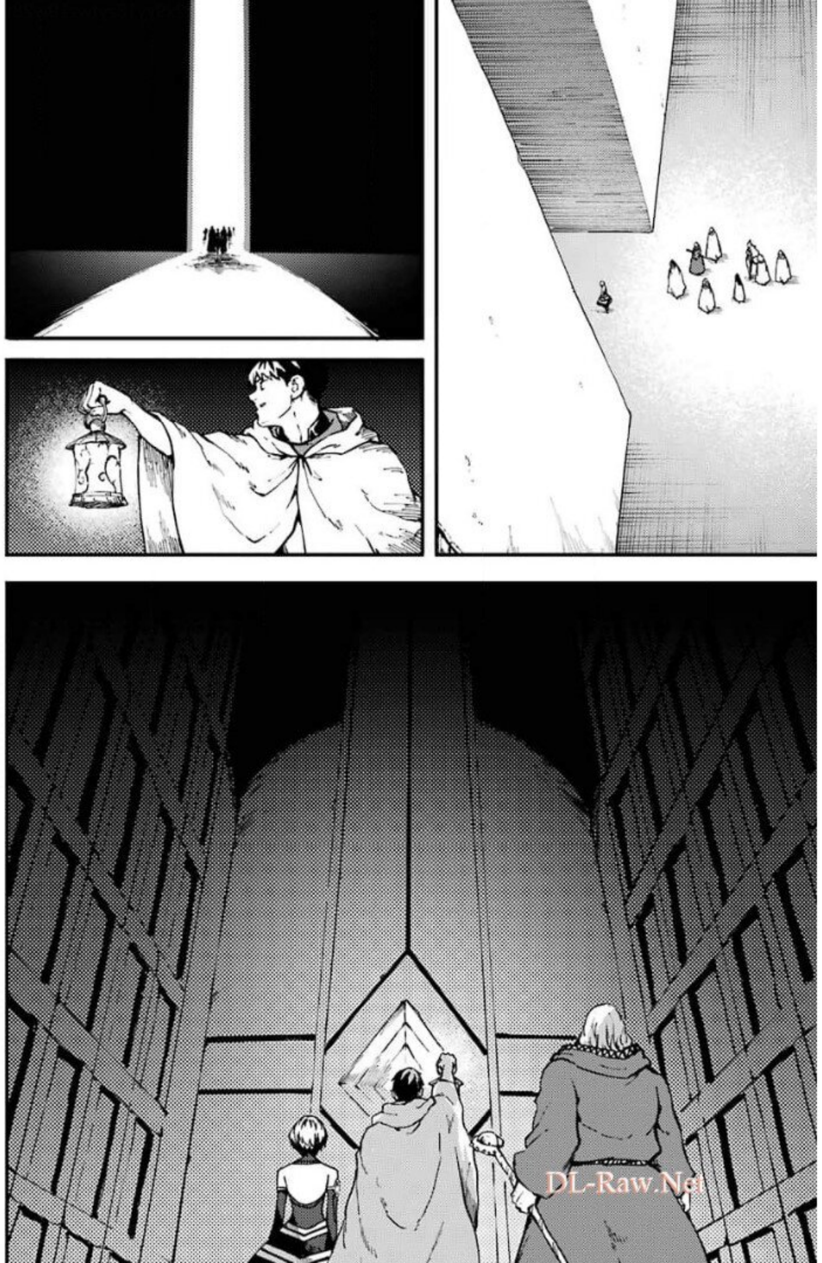
TALES OF WEDDING RINGS


やっぱり…
山頂の遺跡とはまるで様子が違うな
…うん
ここは綺麗なままっていうか…
誰もいないみたいだね
当たり前だけど


まるで暮らしていた者が突然消え失せたようで
不気味じゃの…
油断はするでないぞ
魔動兵士が残っておるやもしれん
お……お化けが出たりして~……
どうしたグラナート?
なななんだ!?
なんだか顔色がすぐれんような…
さすがに少し寒くなってきただけだが!?
へぇ…


ドワーフは深淵王と戦った時代に滅びたのは間違いないんだよな？
正しくは“消えてしまった”
その時代を境に一切の記録が残っておらん
さらに不思議な事には彼らを弔った形跡すら発見されておらんのじゃ
すべて魔物に食われてしまったのか
それとも……
しかしこれだけの遺跡が無傷で残っておるという事はある程度は戦禍を免れたはずじゃ
生き残りもごく少数ではあるまい
そのような者たちが遺したのが……
アンバルか…


この規模ならば
どこかに墓地などあるかもしれんが…
なぁアンバル
さっきからどこへ向かってるんだ？
わからない
アンバルにはここに居た記憶が無い
だけどこの場所を知ってる
…あの
大きな建物に行かなくちゃいけない




ここは…
いったいなんなのじゃ？
ドワーフの文字は読めませんが…
名前……墓碑のようなものなのかもしれません
じゃあここが…
カツーン
カツーン…
ドワーフのお墓なの？


我らは土の民
技巧の民
ドワーフ
ここに我らが在った証を残す
!!


我らは勇猛な種族であった
深淵王に立ち向かい指輪王の勝利に貢献した
深淵王は封ぜられたが呪いを残した
矢面に立ち戦った我らはゆえに呪いを強く受けた
深淵王の呪いは滅びの呪い
生きる意思を奪い…
未来への希望を奪い…
やがて深淵に還す呪い
呪いは止められぬ
ドワーフはいずれすべて滅ぶ
世界を守り戦った対価が種の滅びなのか
ただ恨めしく
ただ悲しい…


ここは…かつての王宮
ドワーフたちの…名前だけの墓所
ここに生き残ったドワーフたちはみな深淵王に呪われた
強い
強い呪い
生きる意思を少しでも欠けば深淵に飲まれ消えてしまう
何も残さない完全な消滅
…だからなんの痕跡も無かったのか
大切な人が消えてしまえばそれは生きる意思の欠如になる
ドワーフは次々と深淵に飲まれていった


光の指輪では止められなかったの？
指輪王を失った光の姫はひとりきり
指輪ひとつでは不完全
他の種族も呪いを恐れて近寄らなかった
滅ぶ事は…止められなかった
そんな…
あなたたちは…
新たな指輪王にこの恨みを伝えるためにここに呼んだの？


カァ
!!
ゴゴゴ
ゴゴゴゴ…



アンバル…
おかえりなさい


!
あれは…？


アンバルを…
ここに呼んでいたのはあなた？
そうです
私は限られた力しか持たない
考える事も出来ない
伝える事
そのために私は造られ
あなたを待ち続けていました
アンバル…
あなたはここで生まれたのです


アンバルはあなたに問い質したいことがある
ドワーフたちは本当に恨みの中で消えていったの？
だとすればアンバルはどうして造られたの？
指輪王にドワーフたちの最後を伝えるため？
ただそれだけのため？
そんなはずはない
だってアンバルは……
アンバル…？


……
ほとんどのドワーフたちは恨みの中に沈んでいった…
それは真実です
しかし最後の最後に残ったドワーフたちは絶望に負けなかった
だからこそあなたを造りドワーフの未来を託したのです
滅びの運命には抗えなくともここにいた証を残したい
そして少しでもいい
どんな形になってもいい
この子が私たちの血を伝えてくれればと


あなたは希望
私たちと世界の希望の子です
アンバル…


アンバル…あなたには渡す物があります
深淵王に利用されぬ強い意志と心 そして…
指輪王との清き絆を得て戻ってくるこの時を待っていました
これは鍵です
あなたと対になる鐙
あなたが望む時が来ればあなたの元へと駆けつけるでしょう


そして…もうひとつ伝える事があります
この世界からドワーフはいなくなりましたが
すべてが完全に滅びたわけではありません
!
アンバルに持たせた転移魔法装置
その同じもので最後のドワーフたちは世界を渡りました
深淵王から遠く離れた新天地を目指して


この扉の先は地上ヴァーンナーへと続いています
新たなる指輪王どうか世界を
ああ
任せてくれ
最後にひとつ
聞きたい事がある……
あなたは誰なの？


――……
……！
アンバル！
ガゴゴ…


なんだこれ …床が……
もしかしてこれ エレベーターに なってるのか!?
アンバルは 指輪王のために 造られたから…
ただアンバルは 指輪王の力になれれば それでよかった
でも今は違う
アンバルは 深淵王を倒したい
アンバルを遺した ドワーフたちの遺志に 応えたい


アンバル…
そして… アンバルは 子供を作れる ドワーフと 指輪王の子を
この意味が ちゃんと わかった アンバルは イダノカンを ドワーフで いっぱいにする！
えっ…と それは……
協力して くれる？


ゴォォ


山頂のイダノカン遺跡じゃな
帝国軍が戦っているんだ
行こう
そうだね…
長引けば被害も大きくなる


あの"協力"っていうのは具体的に…
それは…
いま言ったほうが良い?





結婚指輪物語
TALES OF WEDDING RINGS


ここまで来たんだから ぱーっと飛んで行ければ早いのにね
目立つような行動は控えねばならんからの 仕方あるまい
まだしばらくこれが続くんかのう…
はぁ
いや おそらくこれが最後の休息だ
シュタッ
明日にはあの深淵の領域に突入する


こちらの思惑通り深淵王はこちらに気付いていないのか
あるいは招き入れようとしているのか…
とにかく気を緩めず
出来る限りの休息を取っておこう
ふむ… ここは休息も良いが…
最後の戦いに向けての準備も怠らんようにせんとな
というわけでわしらは…
マルス殿
モーリオン
!
?



サトウくん
しっかり力を蓄えておくのじゃぞ
!!



力を蓄えるって
つまり…
ハルトが嫌じゃないなら良いんじゃないかな!
俺は…
わたしは別に…
今ここで
みんなの気持ちを確認しておきたい


みんな…
ここまでついて来てくれたことには感謝してる
本来ならば過去の指輪王のように俺ひとりで戦うのが筋だろうと思う
今回は…戦う時もみんな一緒だ
当然…危険な目に遭うことは避けられない
だけど…
そんなことは今更だ
…そうだな
ここから先に進めばきっともう後戻りは出来ない
最後の機会だ
だから改めてみんなの気持ちを聞いておきたいんだ


そうですね…


わたしはきっと
サトウ様に出会わなければロムカから出ることも無かったでしょうから…
サトウ様にはとても感謝しています
外の世界もたくさん見ることが出来たし
サトウ様が元いた世界にだって…
少しの間ですけどお邪魔出来ました
それ以外にだって…
憧れでしかなかったものにたくさん触れることが出来て
本当に……とてもとても感謝しているんですよ
その気持ちはずっと…
そして今も変わっていません
ですから…
トッ
トッ
トッ…
ス…



これからもずっと
あなたの側にいさせてください♡
なるほど…
そういう流れか!
そうなの!?



よし…
わたしはだな…
わたしは指輪王の妻として…
そして猫人の戦士として
共に戦うことは当然のことと思っているが…
それ以上にわたしは勝ち取りたいものがあるんだ
この世界の平和以上に…
だからこの先も共に行かせてくれ
サトウ



お前の心は…
わたしとも通じ合っていると信じているぞ



んん〜…♡
しまった…
少しマジになりすぎた
なんかこれ…すごく恥ずかしいんだが…
何を言うとる!
皆からの愛を受け取るのも指輪王の勤めじゃろう
んく?いいのかサフィールそんな余裕かましていて
次はお前の番だぞ?
…ふん
このような茶番でのぼせ上がる妾ではないわ



サトウのことは
指輪王としては少々頼りないと思っておったのじゃがの…
実際はここまで来られたのだから
役割を果たすに十分であったということじゃ
心配せんでも妾は最後まで付き合ってやるぞ
何よりおぬしと一緒だと退屈せんからの
ほい
少々身を屈めい



ちゅっ
おいおい
なんだそれだけか〜?
スタスタ
うっさいわ
べつにエエじゃろ


アンバルは指輪王と共に戦うために造られ運命に従い指輪王と出会った
今ここにいる理由はそれだけで十分
随分あっさりじゃな!?
でもアンバルに出来ることはそれだけじゃないことがわかった
アンバルを造ったドワーフたちの遺志をアンバルは引き継ぎたい
これは未来のための戦い運命だけではないアンバルの意思


アンバルは…
指輪王との赤ちゃんが欲しい
!!?
わかってる 今はまだその時じゃない
これは深淵王を倒した後の話
だからみんなで絶対に勝利する
そして生き残る
みんなで未来を勝ち取る


そっか…
では最後は…
クリストルは今更何も無いだろう
なんでっ!?
じゃあ我々も席を外すとするかな…
あ そうですね…
え…? みんなちょっと……!?
!


指輪王…
なんだろう…
前はこんなことがあるととても嫌だったけど
今はもうそんな風には感じない


それでは
準備は怠らないようにな


確かに…
わたしが今更何か言うことなんて無いよね…
だけど…
気持ちはちゃんと伝えなきゃダメだと思うから……




…なんか
今までと違う感じがする
ありったけの気持ちがこもってるからね
ガバッ
グラナートがね言ってくれたんだ
思いっきり力をつけてあげろって
ズル…


だからね…
ハルト……


わたし
本当はちょっと
後ろめたいと
思ってたんだ
こんな風に…
ハルトを
独り占めして
…でも
そうじゃ
ないんだよ

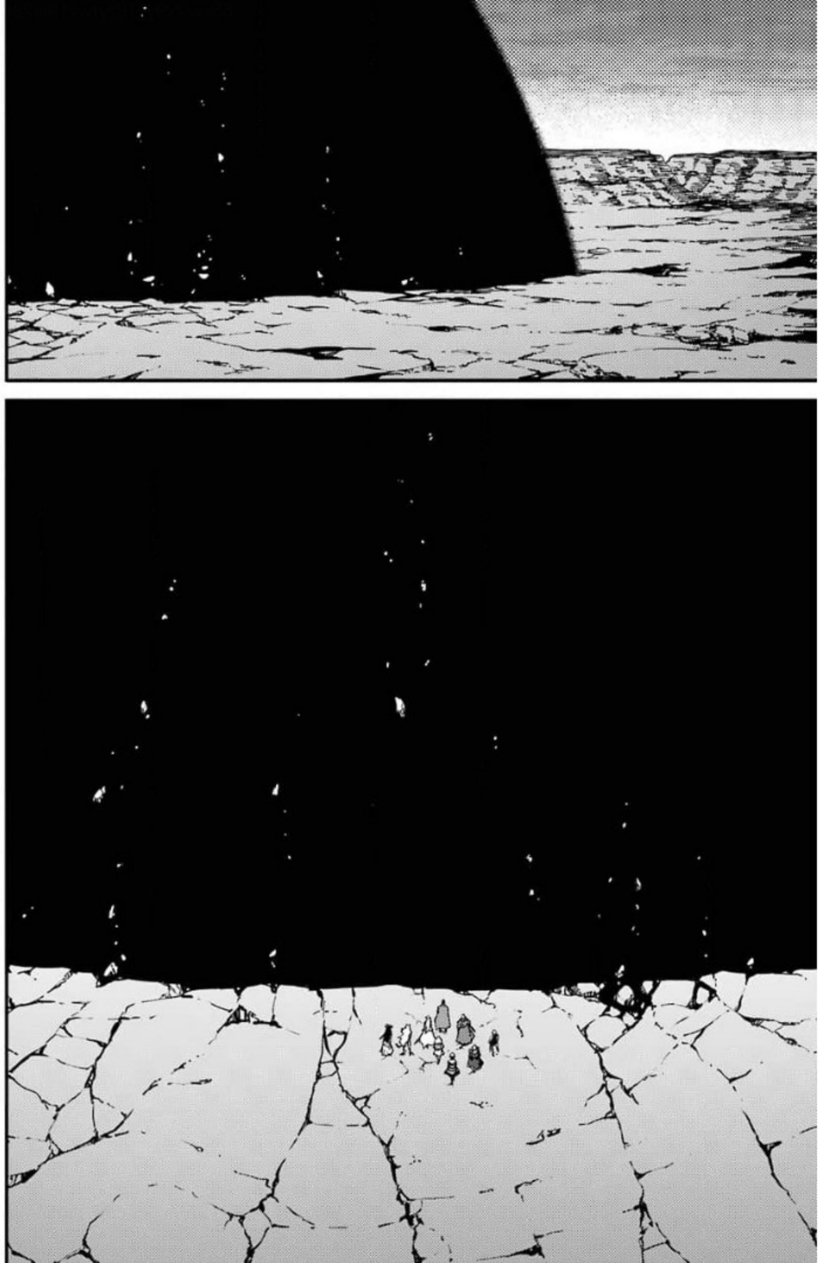

みんなの気持ちはちゃんと集まってる
わたしを通してハルトに与えられるようにって
みんなが気を使ってくれてるんだ
こんなのが許されるのは
今だけかもしれないけど
だから ね……


今は後ろめたいなんて思わないで
わたしのことを………


しっかりと準備は出来たか？
ザッ
ああ…
バッチリだ
そ……そうか…
ちょっとハルト…！


はっ
いやー昨日の夜はすごかったよねぇ〜ホント…
皆揃ったか…
それでは出発じゃ！


ここから先が深淵の領域か…
だ…大丈夫なのか？
こんなもんの中に入って……
うおっ!? さらっと入っていきよった！
わたしたちも続くぞ！




トッ…
妾たち以外
何も見えんの
だが!?


パァァッ
!!


あの城か……
あれは…
かつてのニーダキッタ城……
!?
随分と変わり果ててはいるが
伝説に語られた面影がある
深淵王の居城に作り替えられていたとは…
ここが…
かつてニーダキッタだった場所なのか……


わたしは魔動車こそが祖国だと思っている
だがいざこうして見せつけられると…辛いものがあるな
深淵王の手に落ちれば世界のすべてがこうなるやもしれん…
だからこそ…
俺たちで止めるんだ
!!


もしかして昨日のって……
え
そんなの全部丸聞こえだったに決まってるでしょ
!!!!!!!!
DL-Raw.Net


ズゥウウン…
気付かれたか…
ここまで来れば仕方あるまい
…何が待ってようとやってやるさ
行くぞみんな!!!
DL-Raw.Net



結婚指輪物語

TALES OF WEDDING RINGS


第62話









洩れた敵は任せろ！
敵の数を減らすことに集中してくれ
ああ！
ネフリティス
守ってくれ！
…はい！



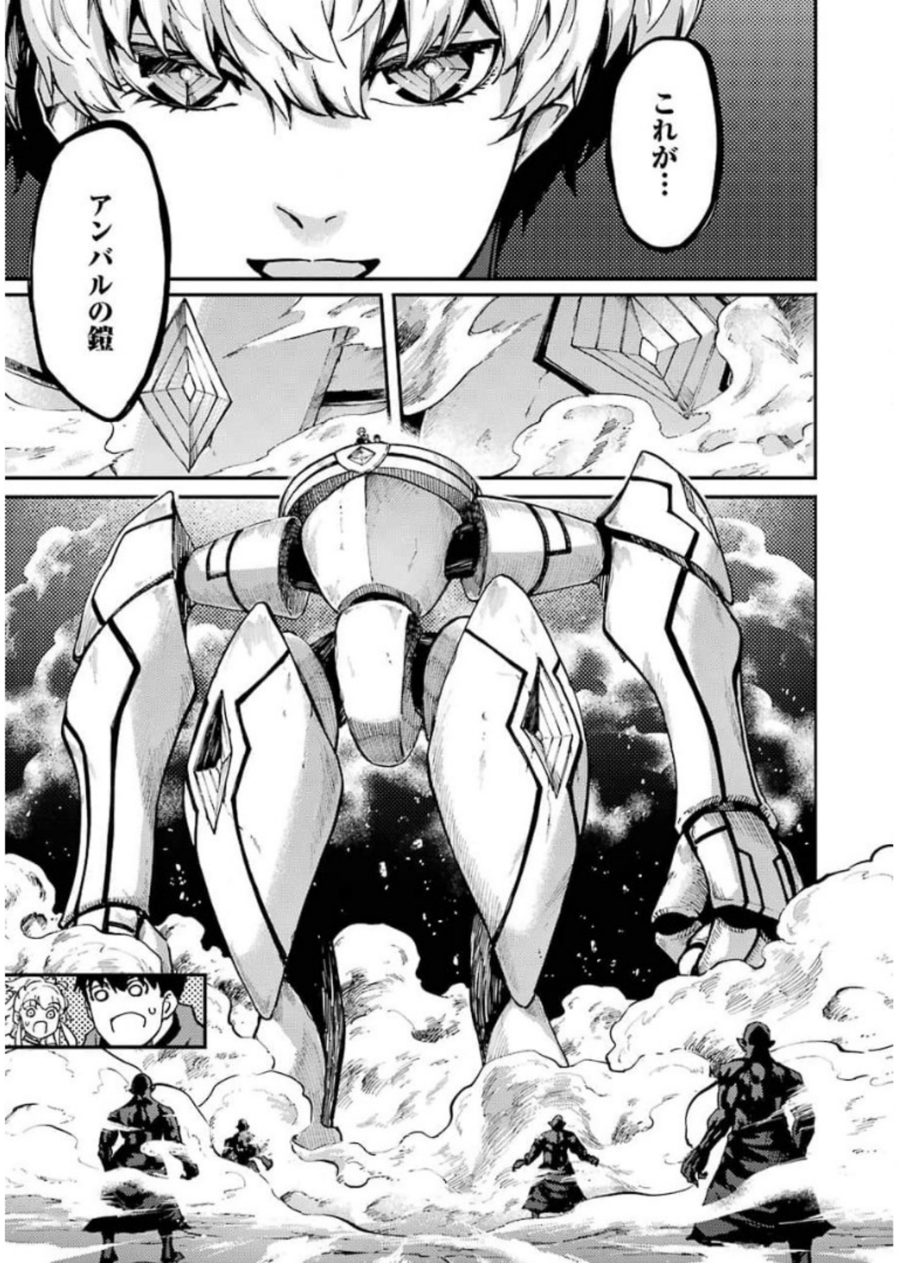

本丸はまだこの先じゃ
ここで力を使いすぎるなよサトウくん
このくらい問題ないさ…
〝ありったけ〟を貰ったからな


皆のもの…
足を止めるでないぞ!
ザッ




くそ…
もう目の前だってのに……
このくらいの距離さっと飛んで行けばよかろう！
ネフリティス！
!!
危険ではあるが仕方あるまいか…
アンバルが貰った力を使う
!
じっとしていて




これが…
アンバルの鎧



このまま
お城に突撃する
なんだって!?
グオオオオオ



ドオー…
これで
中に入れる
ついて来て
お…
おぉ……
なんと
大胆な…


ここは堪えるんだよ
アンタたち!!



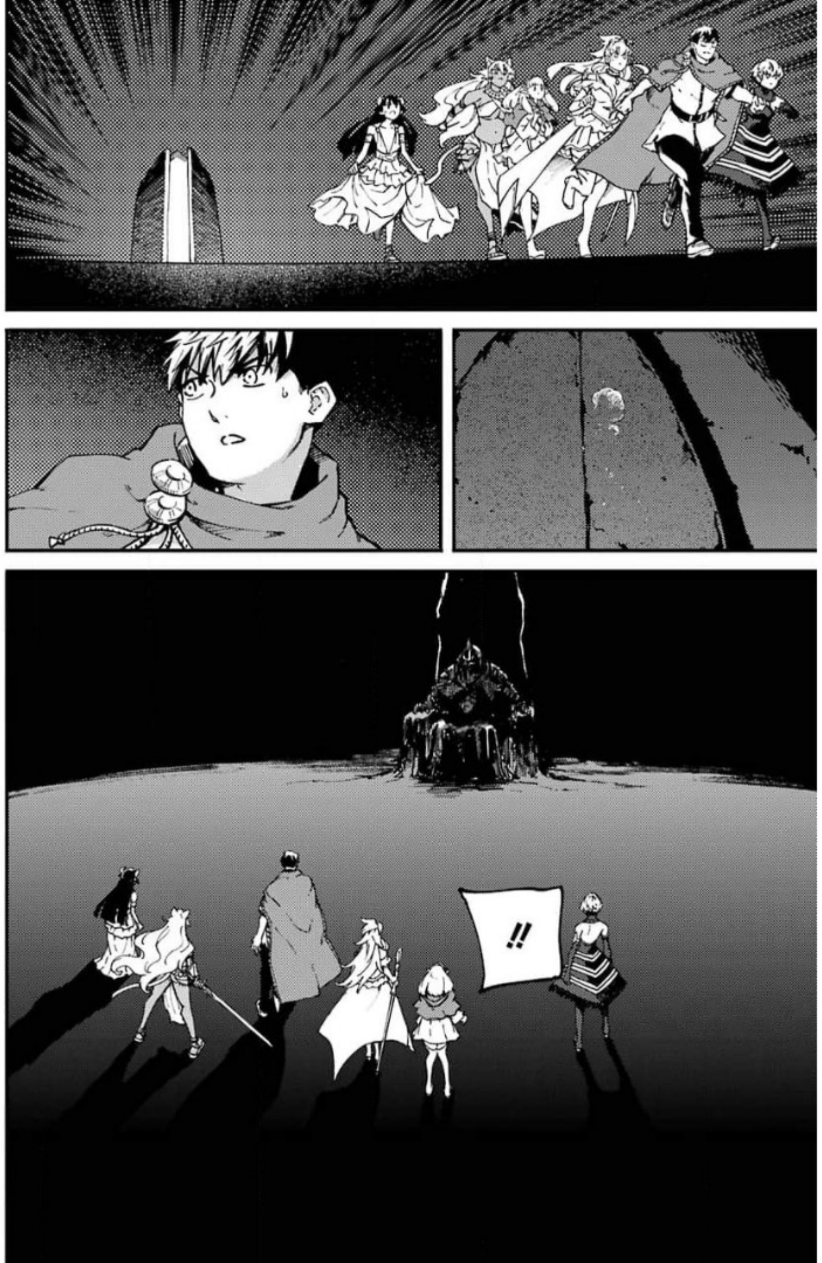



なんという数…
切りが無いな
いや
見られよ
魔物の動きが…
鈍ったか？


深淵王はここから意を逸らさざるを得なくなった
彼らが…辿り着いたということだ
時は来た
一気呵成に攻めよ!!!
おぉおおおお!!!
ピクッ
ハルト…?


深淵王はここにいる……
わかるんだ
!!
挟撃させるわけにはいかないからね
深淵王を打ち倒せるのは指輪を持つ者だけじゃ


光の指輪と姫君たちが世界を救う……
ワシはその伝説に願いを託し命を捧げてきた
サトウくん
君なら必ず伝説を真実に変えてくれると信じておる
この世界を…
姫乃を任せたぞ
行くんだサトウくん!
あたしたちなら大丈夫だから
行ってお兄さん!
ああ…
ここは頼む!


‼


深淵王っ…‼


深淵王の騎士か……!?
これは
始めの指輪の姫たち
…其を模した物
人の姿をした
深淵……


あなたは…
そういうことです
私は
このお方のモノ
あなたも
こうなる
はずだった


愚かなり
新たな指輪王よ
その背に守る者たちは
いずれお前を裏切る
結婚指輪物語11　おわり


よーうやく目前まで来たというのに……
コイツここまで何もしてなくないか

『結婚指輪物語』11カン

あとがき



前巻、いざ深淵王の元へ！という所で終わっておきながら
辿り着いたのは今巻の最後…ということになってしまいました。
道中の想定は元からあったのですが思ったより長くなりましたね。
しかしこれはやらねばならぬことなので仕方がありません。

本来ならば次の巻くらいでこの物語も終わるつもりだったのですが、
お話が予定より進まなかったので次巻では終わらないと思います。
終わりは次の次くらいになるでしょうか。たぶんね！

前巻でサトウとヒメは無事結ばれたので
今巻では遠慮なくいちゃいちゃしまくってもらっていますが、
他のお姫さまたちはこのままで良いのでしょうか…
果たしてこの先どうなることやら。
その辺りの期待に沿えるかどうかはわかりませんが、
また次の12巻もお楽しみに！

めいびい

結婚指輪物語

TALES OF WEDDING RINGS

アーヌルス博物誌

迷宮隧道の奥深くにドワーフの地下都市は実在した！

それはこれまでに見つかっていた小規模な採掘の拠点ではなく，地上のイダノカン遺跡を上回る広大なものであった．かねてよりドワーフの生き残りが地下深くに暮らしているのではないかとの言説は聞かれたものの，その確たる証拠が見つかることは無かった．新たに発見されたドワーフの地下都市では，ドワーフが滅びたとされる神話の戦いの年代よりもわずかに後の時代の痕跡が見られる．ニーダキッタに残された物よりも改良された魔動機関などがそれであるが，同時に彼らが忽然と消えてしまった証も見つかっている．家財道具が残された家屋や，神殿と称される施設の碑文などが，ドワーフたちが地下世界にもはや生存していないことの証明ともなってしまった．

この発見はドワーフ研究家達に衝撃をもって迎えられ，それまでに立てられた数多くの仮説を否定することとなった．曰く，長い地下暮らしと孤独でドワーフは飢え苦しみ，人食いドワーフとなり冒険者達を襲っている．曰く，数を減らしたドワーフは個体の生存力を高めるため大型化し，大山壁カオガミカに伝わる伝説の巨獣カオゴンとなった．

これらの夢あふれる仮説も，いまとなっては異世界へ渡ったドワーフたちとともに消え去ってしまったといえるだろう．

地下都市は坑道と違い，火の魔素を用いた魔動機関による照明に照らされている．その明るさたるや地上の陽光と遜色なく，ドワーフの魔動技術の高さをうかがい知る事ができる．

火の魔素による照明は現在でも広く用いられているが，ドワーフの照明はその仕組みがかなり異なっており，発光する菌類や炭化した木片なども用いられた複合的な照明であることがその最たる特徴である．建築材に組み込むことも容易であったようで，壁面や床材などが薄ぼんやりと光を放つその様は幻想的ですらある．さらに驚くべき事に，地上の日照をいかにして知りうるのかはわからないが昼夜で明るさが自動的に変わるのである．これは擬似的に昼と夜の環境を再現していると考えられている．

地下暮らしのドワーフといえども集団生活を送る上で，一日の周期から逃れることは出来なかったということだろうか．研究に没頭し閉じこもりがちな学者や噂に名高いロムカの姫君よりもよほど規則正しい生活を送っていたようである．

アーヌルス博物誌

イダノカン補遺稿

本誌編纂の中途にあってイダノカンにて新たな知見が数多く得られた．補遺としてここにその子細を記す．

イダノカン峡谷は大山壁に抱かれたイダノカン遺跡からふもとのマーサ側へと続く深い谷である．かつてはイダノカンとマーサを結んだ主要な街道が敷かれていたと考えられているが，山腹にいたる道はところどころ崩れ，登るのにはそれなりの苦労が伴う．両側が険しい崖に挟まれた谷は見通しの良い一本道のような構造になっており，北の地ヴァーンナーより襲い来る深淵王の軍勢を迎え撃つにはもってこいの場所であった．帝国がここに巨大な要塞を築き上げたのはしごく当然のことと言えるだろう．

いかに深淵王といえども，人の領域に大軍を送り込むことは容易くは無いようで軍勢は決まって北方より現れ谷に沿って降り下り要塞に挑んだという．人の造り上げた砦に人の軍勢のごとく正面から攻め寄せる様は、まるで人を模しているかのような振る舞いに見受けられるが，すこし考えてみて欲しい．

魔物のほとんどは言葉を話さず，深淵王はただ一人で大軍に指示を出さねばならない．いわば数万のタオルケットの群れを一人で世話するタオルケット飼いのような状況なのである．これはいかに人知を越える力を持つ深淵王といえどもほぼ不可能に近いのではないだろうか．



しかし，他に行き場の無い谷に魔物を詰め込み，後ろから押し出すのならばどうだろうか．まるでマーサの水菓子テコロ・トンのように次から次へと魔物が押し出され、一方向への単純な行軍のみとなってはしまうが軍勢の一糸乱れぬ統制が可能となる．死を恐れぬ無尽蔵の兵士あってのものではあるが深淵王の軍勢の戦法は必然のものであり，孤軍奮闘せざるを得ない深淵王の苦労というものもうかがい知れるのでは無いだろうか．



結婚指輪物語
— TALES OF WEDDING RINGS —

EXTRA CONTENTS ‼ カバー折り返し



めいびい
MAYBE

PS5は幻

※コミックス発売時のカバー折り返しを収録

デジタル版　Ver.1.00

BG COMICS

ビッグガンガンコミックス

結婚指輪物語⑪

著者／めいびい

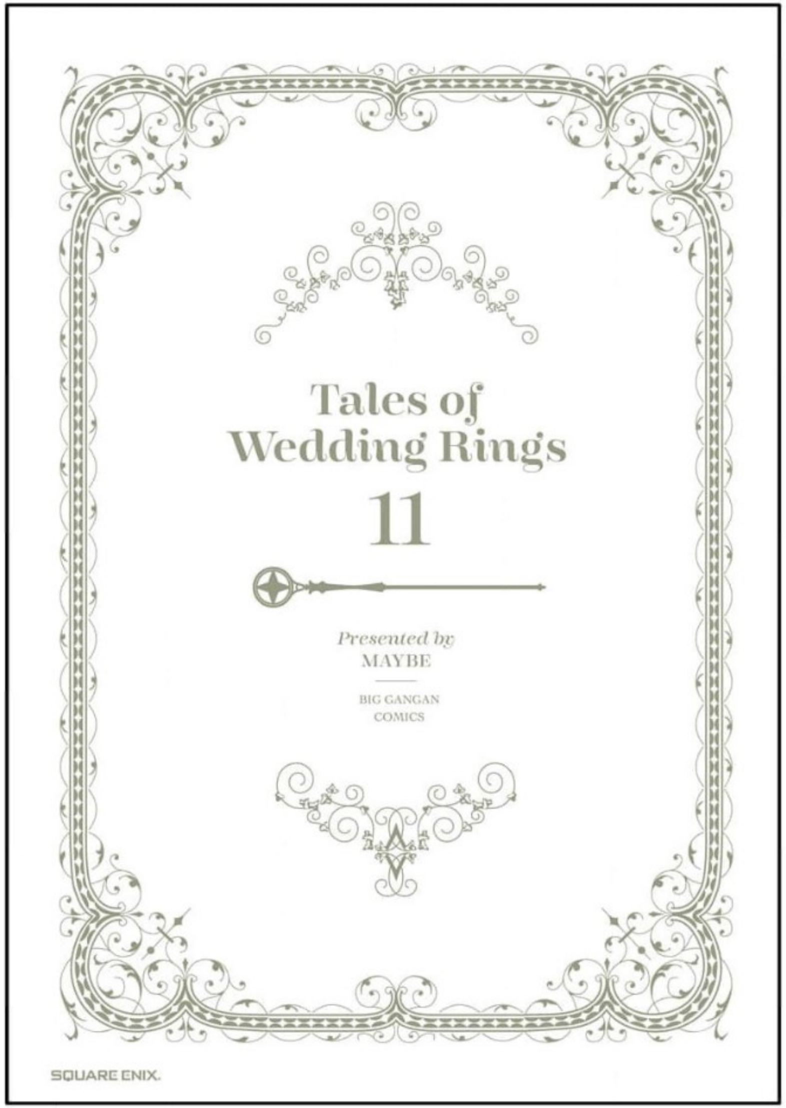
2021年 8 月25日　Ver.1.00発行

発行所　株式会社スクウェア･エニックス

担当編集　小泉浩志
装幀　阿閉高尚(atd)
初出／月刊ビッグガンガン2021 Vol.02～Vol.08

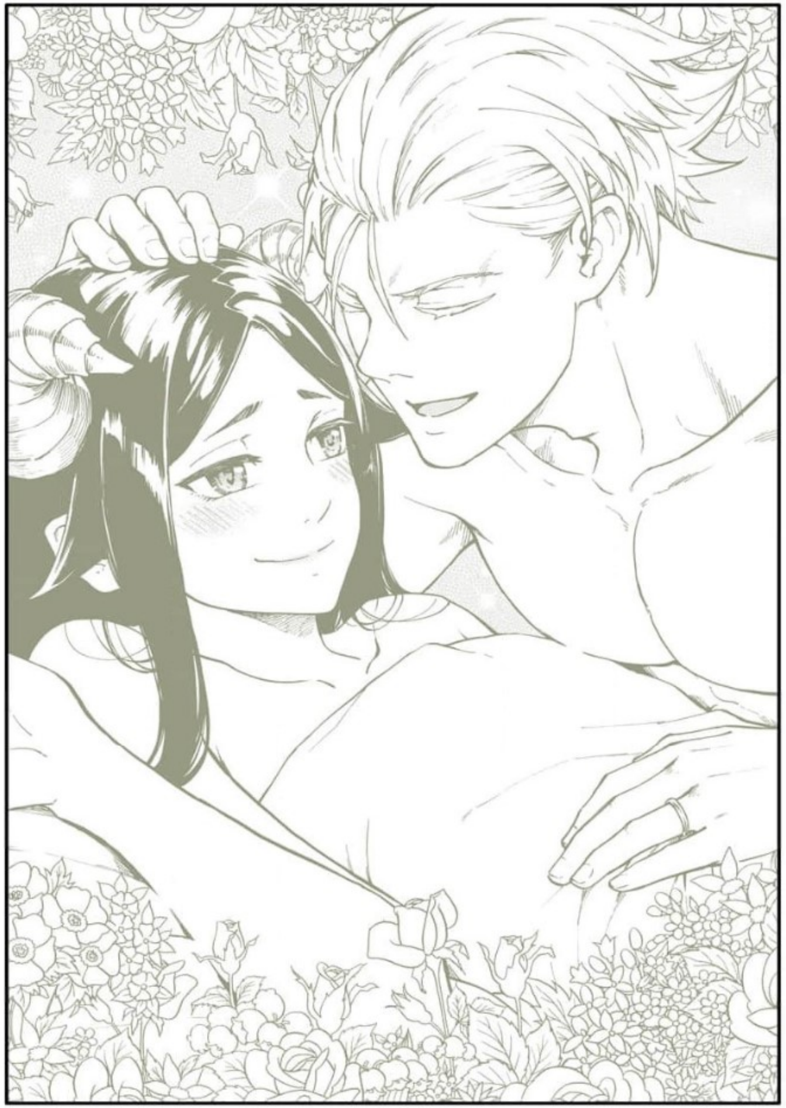
<ページ抜け・誤植・内容についてのお問い合わせ>
スクウェア・エニックス　サポートセンター　http://sqex.to/jp_manga_support
<ビュワーの不具合・再ダウンロードできない等、販売に関するお問い合わせ>
本作品を購入された電子書籍書店のサポートセンターにお問い合わせください。

EXTRA CONTENTS ⁝⁝ 表紙 裏



※コミックス発売時の表紙 裏を収録

EXTRA CONTENTS ⁝⁝ 表紙 表



※コミックス発売時の表紙 表を収録

EXTRA CONTENTS ‼ カバー裏



Tales of Wedding Rings

結婚指輪物語

ついに想いを遂げたサトウは、

ヒメたちと共に決戦の地へと向かう。

道中、ドワーフの迷宮でアンバルを呼ぶ存在が……？

そして他の姫たちの願いも力に、サトウはいよいよ深淵王の元へ——!!

姫たちの心もカラダも弾ける第11巻!!

……11……

Presented by

MAYBE

※コミックス発売時のカバー裏を収録